

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 22 年 9 月 30 日（木）10：00～11：00
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 4 特別会議室
- 出席者 和田政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、泉統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官
- 議事概要

和田政務官挨拶

- 和田政務官 さる 9 月 21 日に菅改造内閣の中で、内閣府の大臣政務官を拝命いたしました和田隆志と申します。この分野は、初めて勉強させていただきますが、どうぞ諸先生方、ぜひご指導をよろしくお願いいたします。

エピソード的になりますが、私は 21 日に拝命するに当たって直前に菅総理ご自身からお電話をいただきました。そこに総理の思いがおりだというのがよくわかりましたので、皆様方にご報告するとともに、私どもが一生懸命取り組ませていただくという決意の表明にさせていただければと思います。

先ほどご紹介ありましたとおり、海江田大臣も同様に大臣にご着任のときに、総理から直接この科学・技術の分野は本当にこれからの国の将来を担う分野だけに、今までよりもさらに一層重点的な取り組みが必要であるというご指示をいただいているというようにおっしゃっておられました。今日は、予算委員会でどうしてもやむを得ずあちらのほうに行かざるを得ませんが、くれぐれも委員の先生方のほうによりしくお伝えくださいということ承ってまいりました。

中身の話はこれからしっかり勉強させていただきますが、大臣とも話し合いましたところ、また私自身が感じていますところをお話し申し上げたいと思います。

今の総理のご指示はそのとおりだというように受け止めておりますが、その中でも科学・技術の分野は国の将来の発展を担うということのもう 1 つ掘り下げた意味は、若い世代に夢と希望とを与えて、この国でしっかりと頑張ろうという志を立てていただく非常に大きな要素ではないかというように思います。

そういった意味で、今まで科学・技術のいろいろな分野で技術のノウハウ、それから発明、発見、そうしたものを蓄積していただいた方々の偉大な資産をしっかりと若手に引き継いでいただきまして、その若手がさらに付加価値をつけていくような、そんなところに志を持てるような科学・技術の分野での議論にしていきたいということを大臣も申しておりました。

私自身も実は、私ごとで恐縮ですが、今、2 児の父親でございます。上が中学校 1 年生で、宇宙飛行士がこちらに帰ってきたときに、いろいろな行事がございまして、そこに親子で行った時のことでした。子どもの目がこんなに輝いていることはなかなかないなと我が子を見て本当にほほえましく思いました。そんな子どもが日本全体にたくさんいるはずでございます。ぜひ皆様方のご所見をいろいろと国として活かさせていただきながら、次の世代の人たちがこの分野で頑張ろうと思っていただけるような、そん

な国の施策づくりに取り組んでいきたいというように考えております。

そうしたことで有識者の皆様方にこうやってお忙しい中、いらっしゃっていただいている、こういった機会をぜひ最大限活かさせていただきたいということでこれからしっかりと勉強させていただきます。どうぞご指導よろしく願いいたします。ありがとうございました。

議題1．科学・技術政策の最近の動向について

<相澤議員説明>

○本庶議員 民主党政権になりまして、最初に科学・技術政策を政策の中で重視していくということを元担当大臣の菅さんにおっしゃっていただきまして、それなりに我々も努力してまいりました。先ほど相澤議員からお話があった幾つかの新しい試みを進めてきております。まだその成果が確固たるものというところまでは行っておりませんが、しかし民主党政権として最初に打ち出された国家戦略局を強化して、その中に経済とか科学・技術といった国家の根幹になるものの全体像をイメージして各省庁をリードしていく。こういう考えは我々も基本的にぜひお進めいただけたらいいのではないかと考えて、それに沿うような形で、少しずつ地道に努力いたしておりますので、ぜひ新しい内閣におかれましても、そういう方向を努力していただくということを進めていただければ大変ありがたいと思っております。

○相澤議員 ただいまのご発言は第4期の科学技術基本計画の策定及び予算編成プロセスの改革、この両方に関わることになるかと思えます。特に、新成長戦略に出された戦略が科学・技術の関係では総合科学技術会議が進めているところにぴったりと歩調を合わせて進めてきておりますので、ぜひ国家戦略室が今後もその軸をしっかりと守っていただきたいというのが私たちの強い希望でもあり、期待でもあるわけです。ぜひ、その辺のところはよろしく願いしたいと思えます。

○和田政務官 早速、課題をいただきましてありがとうございます。

総理ご自身が本庶先生、相澤先生がおっしゃられたような趣旨の気持ちを十分お持ちのようでございまして、私は財務省出身でございますが、今まで科学・技術の分野の予算編成ではやはり各省庁が財務省に概算要求を出して3カ月ほど審議して、各省の予算として確保して実行するという習慣が続いてまいりましたが、そんな中で、効率よくしかも選択と集中という概念を活かしながら、国がどんな分野で科学・技術の技術を育てていくのかというメッセージを発出することが十分できていなかったように思います。

そういった意味で、この総合科学技術会議というものの存在は極めて重要だと思っております。いかに国全体として科学・技術の分野をしっかりと束ねられるか。その束ねた上で必要な予算を確保して、そこに研究の焦点を当てることができるかということは、大きく言えば政権交代の1つの大きな意義であり課題だと考えています。ですから、そこはもうご趣旨は我々もわきまえておりまして、そのように進めていきたいと考えております。

先ほど、第4期の計画の策定のお話も出ておりましたので、私はまだ第3期にどのような内容で、どこまで実行できているか、もう少ししっかり勉強しまして、先生方のご趣旨として第4期にどのようなことを盛り込んでいくべきかということをしっかり受け止められるようにしてまいりたいと思っております。

○奥村議員 科学・技術の動向という面から国の科学・技術政策がどうあったらいいかという点について一言触れたいと思います。

ご案内のように、科学・技術がいわゆる高度に発達してくる過程が最近ではさまざまな要素技術を組み合わせてでき上がってきており、1つの研究成果だけでは大きな世の中の課題解決には貢献できません。原子力もそうですし、新幹線、いわゆる社会システム、インフラと言われているものはみな統合化された技術成果なのです。そういう統合化が大きな技術の流れでございますので、私どもは府省連携ということを常々申し上げておりますが、ある意味では技術的必然です。それぞれの府省の持っておられる技術だけでは社会の問題を到底解決し得ない。そういう時代を迎えていますので、いつまでも府省連携ということをスローガンにしていけない。これをすべからく実質化していくことが必要です。そういう意味の試みとして実は今年から始めておりますアクション・プランという施策がございまして、従来の各府省の予算を概算要求提出後に判断するのではなくて、事前調整して、できるだけ政策課題解決に貢献してもらうということで、この仕組みは今年から始めたばかりですけれども、ぜひ4期計画の柱としても根づかせていき、より効率的な取組みをしていくということが、重要ではないかと考えておりますので、ご理解いただけたらと思います。

○相澤議員 ただいまのことに少しつけ加えますと、アクション・プランの中で、政策パッケージということを行っております。これは、1つの施策に対して、複数の省がかかわるときに、この省はこういうミッション、ここはこうだという形で今まで一見複数の施策が出ているように見えるのだけれども、その全体を見ると、その省のそれぞれの役割を明確にして、そしてさらに連携、こういう形を取るべきだという施策のパッケージなのです。これがグリーン・イノベーションとライフ・イノベーションについて今年行われました。今のところこれがかなり効果的に各省に対しての働きかけが進んでいるのではないかとこのように思われます。

○和田政務官 今の奥村先生のお話、相澤先生のお話を承りまして、私自身今事務方からいろいろ説明を聞いている途中ですが、おっしゃっていただいたように今までの科学・技術の分野での予算編成のやり方では、それぞれ細かなところの必要性は説明できたとしても全体としての方向性を指し示すということができていなかったように思います。

ですから、先ほどもお話がありましたように、こういった総合科学技術会議の場で、国全体の方向性を示した上で、いわばその方向性の中でどんな、今で言うと、ライフ・イノベーション、グリーン・イノベーションでしょうか、そういったものの中で、何が必要なのか、そういったところを考えていった上で、その考えていた1つ1つの要素はどここの省庁のどこが担当すべきだということを決めていくことに1つの政策パッケージとおっしゃっていましたが、その実現の可能性も高まり、意義も高まるのだというように思っています。

今までは個別必要なところを取って、予算を編成して、それを実行しても実はその中には大きな概念を実現しようと思えば、何か抜けがあったり、そうしたことで実現しない場合もあるし、実現したとしても、その意義が割と想定したよりも小さかったものに留まってしまう。こういったものもあったように思います。そこはおっしゃるような方向性をもって取り組んでいきたいと思っております。

○金澤議員 私は立場上、学術会議の会長として加わっておりますので、少し立場が皆さん方と違うので、まずお断り申し上げておきます。

最近、学術会議として、総合科学技術会議に関連して政府に対して勧告を出させてい

いただきました。これは、総合科学技術会議が科学技術基本法に基づきまして、このような科学技術基本計画をつくっているわけでありますが、その科学技術基本法そのものをもう少し広げて、CSTPが恐らく改組になると伺っておりますけれども、より大きな会になって、より強い力を持つ会になるだろうということを予想いたします。それに伴って、科学技術基本法そのものをもう少し整備してもらったかどうか。範囲を少し広げてはどうかということを実は提言しております。

その基本的なポイントが、政務官が先ほどおっしゃいましたように、まさに若い人たち、これは相澤先生が説明された資料の7ページにありますような、科学・技術を担う人材の育成というのが書いてございますけれども、この人材というのをもっと若いところにまで広げるべきではないかというのが私たちの考え方です。言うならば文部科学省が単独でおやりになっているものを含めて、ここで議論すべきではないだろうかということでございます。

もう1つは、やはり7ページには、基礎科学技術力の強化となっておりますけれども、これは今までこの言葉でずばり大きく取り上げて、基本計画が練られたことはあまりないのです。むしろ基礎科学技術力の強化こそ、それこそ20年、30年先の日本の発展のためにはどうしても必要なことだと理解しているのですが、基本法には1行ちょっと書いてあるかどうかという程度でありまして、出口を大事にするものと対にして、これを常に考えられるような法制整備をしてほしいということを申し上げてあります。

さらにもう1つ、男女共同参画のことも述べてありまして、ぜひ一度ご覧いただきたいと思っております。よろしくお願いします。

○今榮議員　私は、2年前にこちらの議員の就任のお話をいただきましたときに、実はこの会議がどういう位置にあって、どういうことをしているのかということすらもよく把握せずに当時の政務官にいろいろお聞きして就任したという過程があるのです。と言いますのは、科学・技術を担っているのは中心的には大学でやっているのがかなりのウエートですが、そういう先生方でさえもいまだにこういう科学政策をどこで担っているかというところはあまり理解していただけていません。ましてや国民の方というのは、一体今の科学・技術がどういうようになっているかというのは、全くということはないのですけれども、自分たちは関係ないような形で生活しておられる。

やはり日本として、科学・技術でやっていくためには、そういう国民の皆さんに難しいことではなくて、やはり科学・技術の何が大事で、これから日本としてはどういうことをやっていくんだということを理解していただくということは非常に必要だと思います。その場合に、金澤先生もおっしゃったように、人材という意味で、今回、3期から4期になったときに、かなり内容的にそういう人材、それからさらに社会システムを含めた形の科学・技術を考えていかなければいけない。それに伴ってやはり教育、特に大学の教育も必要なのですけれども、そこまで行く過程で、やはり科学・技術に興味を持った子どもを育てていくというようなプロセスも必要ではないかということで、今回の4期、3期からもかなり変わって、それから国民への科学のアピール、そういったこともやっていくような形で、どんどん内容が膨らんでおりますので、これからもっと対国民という形の政策をやっていただきたいと思いますと思っております。

○中鉢議員　私は、非常勤としてこの1月から加えさせていただいておりますけれども、産業界の立場をできるだけ反映したいという、そういう役割を自覚しているわけですが、現状で見ますと、産業界という出口と、大学で行われているところの基礎研究を確保する、担保する、この関係がこの会議の中で微妙に立ち位置が違ような印象を持っています。も

ちろん科学と技術、イノベーションというのは決して技術、出口に偏重している考えではないと思いますし、基礎をおろそかにする話でもありません。ただ、この関係づけをきちんとやはり整理する必要があるなという印象を持っています。

これまで社会の発展ということを見ますと、国民の生活が豊かになって、産業が強くなって、そして国が安全で、しかも地球規模での持続可能な社会を実現する、そういうことに貢献するということの課題を考えたとき、科学の果たす役割というのは極めて大きいですし、これまで科学が引っ張ってきたと言っても、私は言い過ぎではないと思います。これからの我が国の国民の安全、豊かさ、それから産業の強化、国の安全を考えたときに、科学の役割というのは今まで以上に大きいのではないかと、しかも成長を阻害する要因、これを打ち破るにはやはり科学だろうと私は思います。

そういった中で、半年以上やってきて、いろいろなジレンマがあるわけですが、まず科学の質の向上、誰がどのように評価していくのだろうか。このことの軸がいまひとつ明確ではありません。これは質の向上のための評価軸のことです。それから、もう1つはその質を確保するための予算化が十分かということについてのコンセンサスありません。これは現実にはGDPの4%とか、それから公費の予算付けを1%、この議論がペンディングになっています。

それから、3つ目には、教育から科学に結びつける、教育から科学に結びつけて、産業にまで持っていくという、このプロセスが教育界、それから科学、産業界、この連鎖、エコシステムが必ずしも十分ではありません。どちらかと言うとポストクの問題だとか、理科離れの問題であるとか、こういったことにつながってきます。

それから、4番目には総合科学技術会議の役割というのが明確ではありません。明確というよりは期待されていることと齟齬があるのではないかと思います。伝えられていること、メディアでは司令塔機能を発揮していないというような報道がされています。このことが実状とどういうように合っているのかということ、役割としては調査審議である総合科学技術会議の、調査審議が十分なされていないということをメディアは言っているのか、あるいはこれをコントロールすることを期待しているのか、これもいささか齟齬があるように私には感じられます。

それから、5番目、最後に、やはり繰返しになりますけれども、パブリックとプライベートのパートナーシップ、国が産業に、国がというかパブリックがプライベートを支援するのはいささか役割を超えているのではないかとこの考え方もあって、諸外国の動きに対して遅れを取ってきているのではないかと、特に、東アジアの国の競争力に対して、我が国が総体的に競争力を失っているのではないかと、こういう感じがいたします。

○青木議員 もう申し上げたいことは大体出たのですが、経済学者ですので、資源分配ということから、私は科学・技術をとらえているのですが、その新成長戦略の中で雇用が大事といったときに、やはり将来を担うのは科学・技術だということが出ましたけれども、30年先、50年先の日本の雇用を保証するのは、将来の科学・技術でそれを念頭に置いて資源を分配していただきたいということと、また中鉢先生が言及されましたけれども、世界の中の日本ということをさらに認識して、科学・技術も世界の中で30年先の日本の技術はどういう意味を持つのかということと、人材を育成する場合にも、世界の中で競争していける人材の育成ということを考えていただきたいということをお願いしたいと思います。

○和田政務官 各委員の先生方、盛りだくさんの内容をありがとうございました。

お話をお聞きしておりまして、恐らくは今まで進めてきた科学・技術なるものが、意

味がなかったわけでは全然ないのですが、それぞれ少しずつお話が出たところを使わせていただくと、もっと世界の視点、それからもっと国民の視点、もっと将来の視点というものを持って取り組んでいないと科学・技術の世界の進歩に乗り遅れるんじゃないかということだと思います。

むしろこうした有識者の先生方にお集まりいただいて、そこを変えていかなければいけないのだというように思いますが、先ほどおっしゃっていただいたように、今まで各省庁のそれぞれ自分の担当する分野での開発にかなり近視眼的に取り組んできたところを改め、日本の先ほどお話がありましたように30年、40年先にどんな科学・技術の分野を世界にきちんと売り込んで、富を得た上で国民生活を安定させるか。

先ほどの産業界からのご意見もということでありましたけれども、もともとこういったところで国の役割というのは国が伸ばすべき分野をきっちり決めて、その分野においてしっかりと産業を育て、そこで国富をしっかりと得られる仕組みをつくった上で、それが税收や国家財政の安定につながるわけでしょうから、そういったところを背景にして国民生活の安定をもたらすということだと思います。

さらには、私も最初に申し上げましたけれども、次の世代に私たちはさらに発展基盤を継承していかなければいけないということで、次の世代に対してとにかくこの分野でやりたいという人たちをたくさん生み出すような科学・技術の政策システムというのをつくっていききたいというように思っています。

先ほど、いくつかお聞きしていて、まだ私が不勉強でわからない単語もあったのですが、大体ご趣旨はそういうところに尽きているのではないかというように思っています。

もう1つ、付け加えさせていただければ、研究技術開発の分野でも基礎の部分とそれをさらに応用分野にあてはめて実際に富を生み出す、つまり世界の皆様方がそれを使いたいと思っていただけるようなところまで仕上げていくという一貫した技術開発の分野で、どこをどのように国が担うべきか、民間が担うべきかという仕切りの問題として、日本は極めて国の役割を限定的にとらえられていたのではないかと。こういうご趣旨のご発言がございました。私も財務省にいて、正直言って少し視野が狭いかなというように思っていたところもございます。

一方で、よくあることですが、国民の税金を預かっている立場からすると、そこをどうやって可能性の高いところに振り向けていくかという判断の問題があって、その判断ができるだけの国のシステムというのをつくり出す、それは先ほどお話がございましたように、総合科学技術会議というものができて、私は全体の評価は高まっていると思っています。報道ぶりかどのようなものであれ、私が有権者の皆様から感じとっているところは実は高まっているのだと思います。それをぜひ活用させていただいて、発展的に次のシステムをつくっていくということが先ほどの基本法の話にもございましたし、それからこの総合科学技術会議そのものの改組にもあてはまるのだと思っています。

こんなところまでしか申し上げられない今の実状でございますが、これから先さらにいろいろご指導いただければと思います。ありがとうございました。

○相澤議員

大変よくまとめていただきましてありがとうございました。

各議員も総合科学技術会議をいかに強力なものにしていくかという思いで、いろいろとそれぞれの案件を進めているところでございまして、その自らの中での葛藤もあり、それから実際にそれを実現していくためにはやはり政策誘導が極めて重要でありますので、そのところをぜひ我々の気持ちを汲んでいただいて進めていただくようお願いしたいと思います。

議題２．平成 23 年度科学・技術関係予算についての意見募集結果について

<須藤参事官説明>

(特に意見等なし)

議題３．全体ヒアリング概要

<須藤参事官説明>

- 本席議員 当日のやり取りで非常にわかりにくい省庁等に再度資料を出していただきたいという
お願いをしたところがあると思います。議事録にも書いてあります。それをやはりきち
んと出してもらって、各議員のほうに回していただけたらと思いますが、もう来ていま
すか。
- 須藤参事官 ご指摘あった資料につきましては、すぐにその次の週に先生方にお配りさせていた
いてございますけれども。
- 本席議員 有識者議員の会議の場で。
- 須藤参事官 いえ、有識者会合まで待つのもあれだと思いましたので、個別に先生方にお渡しさせ
ていただいております。
- 本席議員 それ、もう一度まとめてもらえませんか。
- 須藤参事官 はい、わかりました。
- 相澤議員 各府省からの返答に相当する部分、それも加味し、さらに書面でコメントをいただ
いている部分がありますので、それらを総括して、最終的に今回の優先度判定全体のまと
めをしていきますが、その中に、それらのことが反映されて整理されます。

議題４．本席議員出張報告

<本席議員説明>

(特に意見等なし)

(以 上)